

「学生による授業評価アンケート」にもとづく

RIKKYO  
授業ハンドブック

—学生の積極的な学習を励ますために—

2006  
March



## 発行にあたって

本ハンドブックは、2004年度から立教大学全学で実施された「学生による授業評価アンケート」結果と教員からの所見をもとに、学生の積極的学習をうながす授業運営の参考となる実践的な工夫を選び出し、専任・兼任の教員にご紹介するものです。

近年は大学教育改善もしくはFD (faculty development) という考え方が広く取り入れられるようになってきました。ただしその取り組みが一方向的で、授業がマニュアル化されたサービスのようになってしまうならば、創造的な研究と学生の自己発展を目的とする大学は意味を失ってしまうでしょう。

授業評価アンケートと教員からの所見を通じての第一の発見は、全ての学部において、教員と学生が課題と感じていることの多くが共通であることです。第二の発見は、立教大学の教員が授業のポジティブな発展に対してとても前向きであることです。

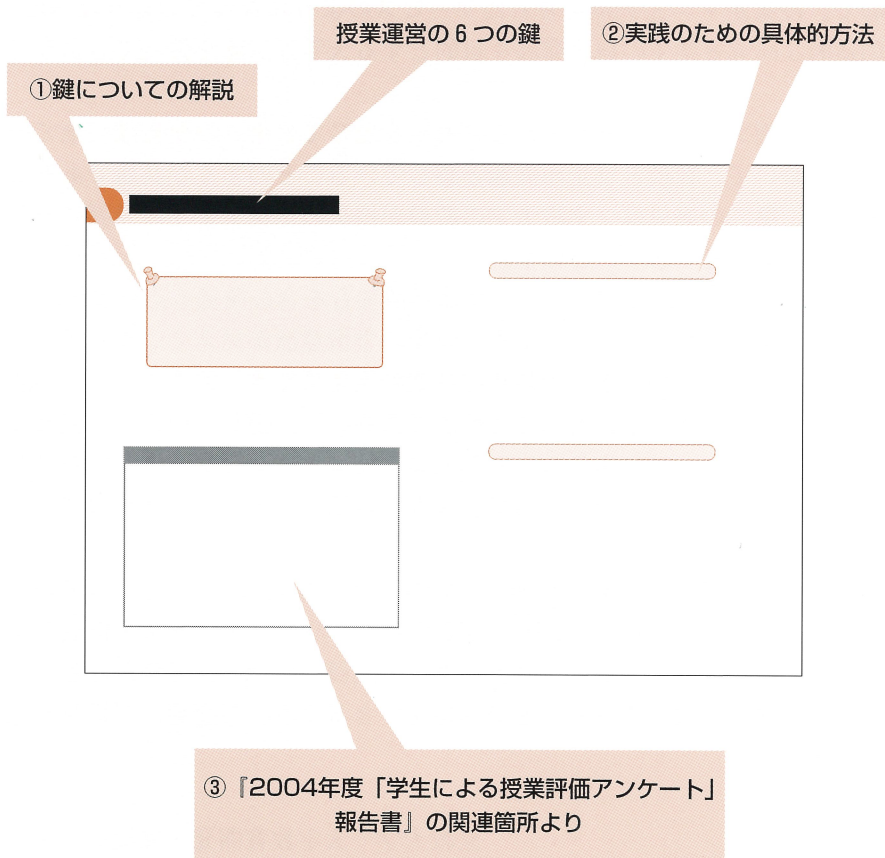
もちろん、授業評価アンケートには不協和音を含む発見もあります。

わかりやすさを心がけていても、学生の学習意欲が見えてこない時、教員はどうしたらよいのか。大教室の授業の見えにくさ、聞きにくさ、私語は教員にとっても学生にとっても悩みである・・・総じていえば、授業はコミュニケーションであるのに、そのコミュニケーションを成り立たせること自体が、個々の教員にとって、大きな負担になることがあるのではないのでしょうか。

そのような課題を調査・分析し、情報と提案を集め、「共有」していくのがFDの一つの役割であると私共は考え、このハンドブックを作成しました。授業ハンドブックが、立教の学生と教員の橋渡しに参考となることを願い、また、次のヴァージョンへ進化できるよう、ご感想、ご批判を乞う次第です。

## ページ構成

本ハンドブックでは、見開きに、1つの「授業運営の鍵」とそれに関連する3つの項目（①鍵についての説明、②実践のための具体的方法、③『2004年度「学生による授業評価アンケート」報告書』の関連箇所）を記載しています。



# 目 次

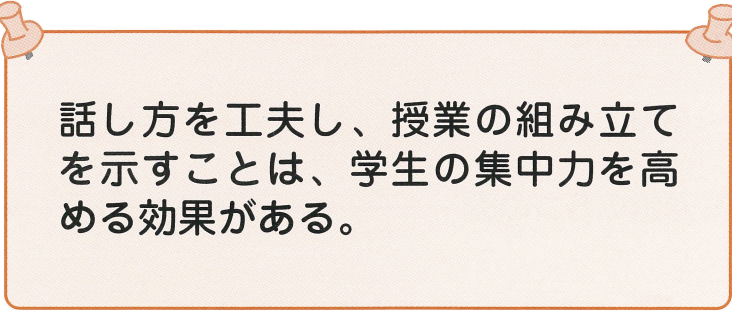
発行にあたって

ページ構成

授業運営の6つの鍵 

- 1** 授業への集中力を高めるために …… 1
- 2** 板書や資料を効果的に活用するために… 3
- 3** 授業内コミュニケーションを活発にするために …… 5
- 4** 積極的な授業参加を促すために …… 7
- 5** 学生の授業外での学習を促すために … 9
- 6** 授業の秩序を保つために ……11

# 1 授業への集中力を高めるために



話し方を工夫し、授業の組み立てを示すことは、学生の集中力を高める効果がある。

## 2004年度「学生による授業評価アンケート」報告書より

- 学生の講義に対する「満足度」は「聞きやすい話し方」、「授業のねらいの明確さ」、「授業内容の明確さ」、「新しい考え方・発想」、「基本的知識」、「わかりやすさ」、「授業全体の目標の明確さ」、「学問的興味」に関連することが分かる。(P.15)
- 学生からの肯定的な評価として多い意見には、「熱心さ、学問への熱意、準備の周到さ、話の分かりやすさ、要点の繰り返し、現代的な話題、ユーモア」の取り入れが挙げられる。(P.24)
- 今後の授業運営上の課題として、「話し方、進行速度の工夫」が指摘されていた。(P.24)

### 明瞭な話し方をしよう

- ▶ マイクの声が届いているかどうか絶えず気をつけ、確かめてみよう（特に大教室の場合）。
- ▶ 単調なトーンで話し続けたいことは、学生の集中力を高めるために効果がある。

### 学生に授業の組み立てをわかりやすく伝えよう。

- ▶ 授業の最初に、その授業のテーマをキーワードなどで提示してみるのもよい。
- ▶ 導入・展開・総括という基本リズムを取り入れてみよう。
- ▶ 授業のリズムに合わせて適度な区切りをつけるのも効果的なことがある（ちょっとした休憩、授業内容に関連した余談など）。

## 2 板書や資料を効果的に活用するために

講義の要点や流れを理解しやすいように工夫し、板書・パワーポイント・配布資料を適切に組み合わせることは、学生の理解度を高めるための鍵となる。

### 2004年度「学生による授業評価アンケート」報告書より

- 授業技術の中でも特に、板書の仕方に関する否定的な意見が多い。(P.15)
- 多くの教員が学生からの意見を踏まえ改善策を提案している。その主な内容は、板書の方法の改善、プリントや視覚教材の工夫、リアクションペーパーの活用などが多かった。(P.24)
- 学生からの肯定的な評価として多い意見には、「ビデオ、パワーポイントなどの視覚教材の利用」や「親切なプリント」の取り入れが挙げられている。(P.24)
- 今後の授業運営上の課題として、「板書の仕方、視覚教材の活用」が挙げられている。(P.24)



## 板書は、内容を的確に、読みやすい字で書こう。

- ▶ 漢字の略字、草書は避けよう。
- ▶ アルファベットは、筆記体を習っていない学生もいるので、ブロック体が望ましい。

## 視聴覚教材（ビデオ・パワーポイント・書画カメラなど）は学生に好評である。

- ▶ パワーポイントを活用する時は、利点と制約を考慮することが大切である。
- ▶ あとで内容を確認できる資料の配布を、学生は望んでいる。

## 配布資料を工夫しよう。

- ▶ 授業内容がよくわかるレジュメをプリントして配布することは、学生に好評である。
- ▶ 図や表には、解説・説明・出典などを加えることが望ましい。
- ▶ 与えすぎは、必ずしも効果的ではない。

※AV機器（ビデオ、書画カメラなど）の問い合わせ先：

池袋メディアセンター（8号館4F：03-3985-3068）

新座メディア事務室（6号館2F：048-471-6686）

### 3 授業内コミュニケーションを活発にするために

学生とのコミュニケーションをはかることにより、理解度や習熟度を確認することが可能となる。また、学生の持つ疑問やつまずきを知ることができる。

#### 2004年度「学生による授業評価アンケート」報告書より

- 多くの教員が学生からの意見を踏まえ改善策を提案している。その主な内容は、「リアクションペーパーの活用」である。(P.24)
- 学生からの肯定的な評価として多い意見には、「授業後に質問、相談に応じてくれること」や「リアクションペーパー、小レポートの活用」、「V-Campusなどの利用」が挙げられている。(P.24)

### 質疑応答を大切にしよう。

- ▶ 学生の質疑を活発化するような授業をしよう。
- ▶ 学生からの発問を促す短い「間」を設けることもよい。

### リアクションペーパーを活用しよう。

- ▶ 授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらうことは、効果的である。10分程度の記入時間を学生は望んでいる。
- ▶ 次の授業を、リアクションペーパーへの応答からはじめるのもよい。

### 学期内に実施する小レポートや課題には、その都度フィードバックを行うようにしよう。

- ▶ 学生に課した小テストや課題に対しては、模範解答や回答例を配布資料の形で示すようにするのもよい。
- ▶ 小レポートに対するフィードバックには、EメールやCHORUS（WEB型授業支援システム）を活用することで学生に個別対応もできる。

### 授業以外のコミュニケーションも大切にしよう。

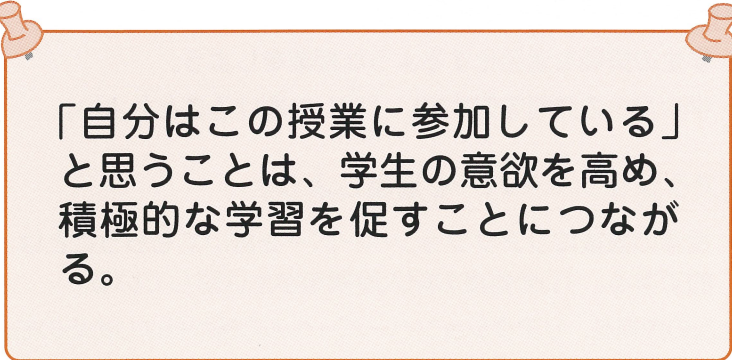
- ▶ 授業内で対応しきれない質問にはオフィスアワーやEメールなどを活用できる。
- ▶ 学生の質問にヒントを得た補足的な内容については、HPやCHORUSに掲載することにより、受講生みんなが共有できる情報にすることが可能である。

※コーラスなどネットワーク上の教育支援サービスについての問い合わせ先：

池袋メディアセンター（8号館4F：03-3985-2905）

新座メディア事務室（6号館2F：048-471-6686）

<http://www.rikkyo.ne.jp/info/>



「自分はこの授業に参加している」  
と思うことは、学生の意欲を高め、  
積極的な学習を促すことにつながる。  
る。

#### 2004年度「学生による授業評価アンケート」報告書より

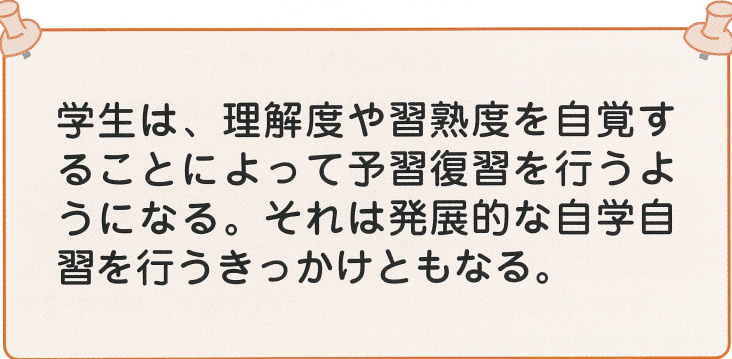
- 改善に向けた教員の取り組みとして、フィールドワークや学生同士の討論などの教授法の工夫も、いくつか指摘されていた。(P.24)
- 学生からの肯定的な評価として多い意見には、「ゲストスピーカーの活用、学生同士の討論の取り入れ」などに対するものが挙げられている。(P.24)
- 「今後の授業運営上の課題」として、「双方向的な授業の工夫」が挙げられている。(P.24)

## 学生にとって刺激的な授業形態を試してみよう。

- ▶ 学生は体験型、スキル重視の授業に好感をもっている。
- ▶ ゲストスピーカーの活用は学生の興味関心をひきつける。

## 双方向的な授業は、学生に「自分はこの授業に参加している」と感じさせることができる。

- ▶ ディスカッションやディベートなどの方法は、特に中規模以下の授業で効果的である。
- ▶ クイズ形式や問答型の方法は、大規模な授業でも活用できる。
- ▶ リアクションペーパーを活用して学生の声を聞こう。



学生は、理解度や習熟度を自覚することによって予習復習を行うようになる。それは発展的な自学自習を行うきっかけともなる。

#### 2004年度「学生による授業評価アンケート」報告書より

- 講義時間以外で、学生の予習復習にける時間が圧倒的に少ない。(P.15)
- 講義に出席している学生たちでさえ、授業時間以外にはほとんど学習の時間を取っておらず、授業の準備や発展的な学習の不足をある程度自覚している。(P.16)
- 多様な学生のレベルのどこに授業のレベルを合わせたらよいか。この悩みもいくつかの学部で指摘されていた。(P.24)
- 学生からの肯定的な評価として多い意見には、「練習問題やミニテストなどによる理解の促進」が挙げられている。(P.24)
- 今後の授業運営上の課題として、「予習復習時間を増やすための工夫」が挙げられている。(P.24)

### 予習復習のきっかけを与えよう。

- ▶ 予習復習に役立つ教材を準備しよう。
- ▶ 学生の関心を引きつける新聞・雑誌の記事、インターネットサイト、短い論文などを紹介し、できれば配布する。

### 参考書を具体的に提示することで、学生の自学自習を図ることができる。

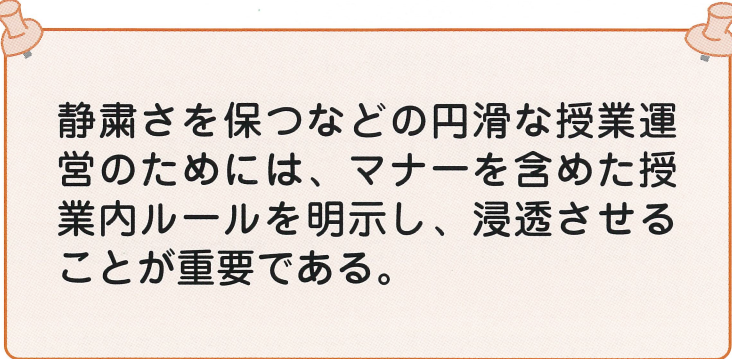
- ▶ 小テストなどで学生の理解度をチェックするのも望ましい。

### 学期中に小課題、小テストを重ねることで、学生の自学自習を促すことができる。

- ▶ 学生は、与えられた課題をきっかけにして、自ら学ぶ姿勢を育て、学習の内容を身に付けることができる。
- ▶ 課題に対する総評・回答例などを提示することも、学生の学ぶ意欲を高めることにつながる。

# 6

## 授業の秩序を保つために



静粛さを保つなどの円滑な授業運営のためには、マナーを含めた授業内ルールを明示し、浸透させることが重要である。

### 2004年度「学生による授業評価アンケート」報告書より

- 学生からの否定的評価として多い意見には、「私語が多い」が挙げられている。(P.24)
- 講義環境上の問題として、「私語などの解決」が指摘されている。(P.24)



授業内ルールは、最初から学生たちに知らせ、確認することが大切である。

- ▶ 私語、遅刻、出欠等のルールは、シラバスや授業内配布物に明記することもできる。
- ▶ 学生に守ってほしいルールは、初回授業の際にアナウンスすることが不可欠である。
- ▶ 各ルール（携帯電話使用、途中退席なども含む）は、授業運営の方針として徹底的に理解させることが大切である。
- ▶ 定めたルールを毅然とした態度で遂行することで、秩序の保たれた授業運営が可能となる。

「常識」と思われるマナーも、言葉にして学生とともに確認することが大切である。

- ▶ 礼儀・社会規範に外れているときは、その場で言葉を通じて戒める。

## 作成メンバー

### 大学教育開発・支援センター

小川 有美 (法学部教授)  
野坂 尊子 (学術調査員)  
寺崎 昌男 (顧問)  
今田 晶子 (事務局)  
伊藤 直子 (事務局)

大学教育開発研究シリーズ No.2

「学生による授業評価アンケート」にもとづくRIKKYO授業ハンドブック  
— 学生の積極的な学習を励ますために —

---

2006年3月発行

発行 立教大学 大学教育開発・支援センター

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1  
TEL: 03-3985-4624 FAX: 03-3985-4615  
<http://www.rikkyo.ac.jp/grp/cdshe>  
e-mail: cdshe@grp.rikkyo.ne.jp

印刷 共立速記印刷株式会社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-24  
TEL: 03-3234-5511 FAX: 03-3263-2740



